

東部地域包括支援センター

R5年度に重点的に取り組んだこと

- ・フレイル予防について住民への啓発
- ・民生委員から地域包括支援センターへ相談を繋ぐ際の、相談目安シートの作成
- ・サービス担当者や地域の支援者と繋がり、最新の情報を収集して相談事例への的確な対応ができる体制づくり
- ・委託先居宅介護支援事業所への総合事業活用（住民主体サービス等）の働きかけ

R5年度実績と進捗状況

- ・フレイル予防をテーマとした北仙道地区地域ケア会議での検討を通し、民生委員のお力添えで北仙道地区4つの町ごとに開催する「お話し会」（計4回）で、フレイル予防の講座を行うことができた。他の集いの場と比較すると、この会は男性の参加者が多いことが特徴であった。セルフチェックに積極的に取り組まれたり、質問もあり、有意義な会となった。
- ・安田地区地域ケア会議において、相談目安シートを民生委員と共同作成した。これから運用に入る。“相談するべき段階か迷い、もう少し様子をみよう”と判断されて状況が悪化してしまうケースもある中、シート活用により早期に相談に繋がることを目指して行く。
- ・サービス担当者や地域の支援者との顔の見える間柄を大事にするため、日頃より適宜の訪問などで情報収集をし、相談対応に活かせるように努めている。
- ・種地区総合事業（住民主体サービス）について、東部圏域内の4つの居宅介護支援事業所(介護支援専門員 計10名)を訪問し、サービス内容や利用手順を紹介した。サービスがあることは把握されていたが、詳細についても知っていただくことができた。

R6年度に重点的に取り組むこと

- ・第二層協議体と合同で、各職（公民館長、地域魅力化応援隊、地域マネージャー、専門職）を招集した随時型地域ケア会議を開催し、地域課題の検討、課題解決や資源開発に向けた取り組みを行う。特に、これまで定例型地域ケア会議や他の会議でも課題として挙がっていた『食支援』と『通院移動支援』について、4地区（安田・鎌手・種・北仙道）合同で検討や解決策の立案を進める。
- ・東部圏域のサロン等の通いの場の情報を取りまとめ、介護予防支援事業所や委託居宅介護支援事業所等へ情報提供をする。総合事業に頼らず介護予防の取り組みができる地域づくりを推進する。

中部地域包括支援センター

R5年度に重点的に取り組んだこと
・昨年度、開設された当センターであるが、まだ周知不足との指摘を受けることもある。引き続き、地域住民・関係機関へセンターの役割・機能に周知を図るべく継続して広報活動を行う。併せて、高齢者の身近な相談窓口としての役割を果たしたい。 ・地域ケア会議、イベント参加、出前講座など可能な限り行い、地域関係機関とのネットワークづくりを図り、重層的支援体制構築への一助としたい。
R5年度実績と進捗状況
・昨年度未実施であった「地域ケア会議」複数回開催することができた。この圏域の特性でもあるが、地域特有・固有の課題に隔たりが大きく、圏域内での共通の課題を見出していくことが困難なため、当面は各公民館ごとに課題を検索していくことになると思う。各公民館への挨拶や定期訪問、百歳体操・認知症カフェなどへの参加を第2層生活支援コーディネーター、益田市健康増進課と協力しながら行っており、折に触れ、当センターのチラシを配布し説明、宣伝をしている。チラシ設置先との折衝も継続的に行っており、ポスティングも検討中。また、拡散性が高いという利点を活かすべくInstagramを始めた。 ・個々人・地域に限らず、アウトリーチも重要・主要な役割と考え積極的に行うようにしている。今後の「対象者把握・発見」「ニーズ掘り起し」「多職種連携」に繋がっていくことを期待する。 ・“みんなの保健室”共催を目論み、R4.12～当センターでの開催を始めたところである。 ・総合相談、プランナーとも少ない人数での対応であり苦慮しているところでもある。視座を高めて取り組む必要性を感じており組織内での連携を意識し、総合相談・プランナーとの協働を図っている。ご迷惑をおかけしているが、各居宅介護支援事業所、行政のご支援、ご協力をいただき、何とか対応できている？といった状況である。増員に向け鋭意努力中。 ・新規相談件数は昨年度より、毎月10数件程度少なく推移しているが理由に関しては不詳。相談対応件数に関しては、毎月100件程度の増加となっている。支援するにあたり、複雑化・重層化・多様化しているケースが増え、終結に至らない事例が増えている印象。
R6年度に重点的に取り組むこと
・移設後3年目となるが、まだ周知されていないという声を聞くこともある。公民館や民生・児童委員、地域への連携強化と共に周知広報にも注力する。 ・新規相談件数は低めに推移しているが、理由については不分明である。総合相談に関しては想定以上の数の増加に加え、多様化・複雑化・困難化しており、対応に苦慮しているところである。行政、その他機関・組織の協力もいただいているが、より連携を図ることが肝要と考える。 ・100歳体操、認知症カフェ、サロンなどへの参加や、益田市社会福祉協議会、益田市健康増進課などと協働しイベント・行事への参加、そこでの相談支援など積極的に行う。 ・昨年度、懸案事項であった、地域ケア会議を開催することができた。本年度も実態に沿った有機的な形での開催を目指す。今年度も、現状を適切に把握し、効果性、実効性を踏まえ圏域内各地域ごとに開催する。 ・元々の人員・人材不足に加え、昨年度末、介護支援専門員1名退職、本年度5月に主任介護支援専門員退職に伴い、緊急避難措置的な対応に終始している状況。幸い、本年度、保健師1名の入植があったが、絶対的に質量とも不足している状況は継続している。まずは、主任介護支援専門員若しくは介護支援専門員1名の可及的速やかな確保を目指す。

西部地域包括支援センター

R5年度に重点的に取り組んだこと
・ 多様化・複雑化する地域課題や生活課題を適切に把握し、解決に向け関係機関と連携して取り組む。 ・ 認知症の方も住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、圏域内各所でミニオレンジカフェを実施し、アットホームで楽しい啓発活動に取り組む。
R5年度実績と進捗状況
・ 新規相談361件（R6年3月まで） 権利擁護や認知症、障がい者、8050問題、困窮、独居、危険な高齢者ドライバー、家族支援、重層化支援など多様化で複雑な相談あった。認知症による高齢者の犯罪には交番警察官やショッピングセンターからの相談で連携を持ち見守りや安否確認などで犯罪抑制への声掛けや対応を行った。相談後の速やかな対応が必要なケースもあり民生委員や関係機関との協働が多くあった。ひとまる会議やコア会議への資料提供を行い話し合いの場を積極的に活用した。 ・ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したのを期に6地区の公民館活動やお祭り等へ多く参加し啓発活動などで地域のフレイル予防に健康相談など行った。独居の高齢者は生活の将来の不安、近所の空き家や害獣問題、買い物や病院へ通えない移送問題など抱えている現状があった。このような課題には圏域地域ケア会議開催を第2層生活支援コーディネーターと協力し行って取り組んだ。地域ケア会議は約2～4ヶ月に1回のペースで実施し取り組んでいる。 ・ 西部包括では予防のプランナーの受け持ち件数の調整中。
R6年度に重点的に取り組むこと
・ 重層的支援 高齢者と同居している身体・精神障がい者、引きこもり者、生活困窮など重なり合う家族の問題にひとまる会議や地域ケア会議など活用をし支援体制をつくる。また高齢者などの権利を守り養護していく。 ・ フレイル予防 高齢者の身体や精神などの機能低下の恐れを保健所やかかりつけ医等と連携をして予防に努める。地域の啓発活動をして健康相談や100歳体操などで予防を重視していく。 ・ 認知症 地域住民や公的機関等との連携に努め危険な高齢者ドライバーなど把握し認知症状への受診支援をする。認知症初期集中支援チームなど活用する。認知症カフェを開催し認知高齢者を抱える家族の精神的な部分への支援を行う。

美都地域包括支援センター

R5年度に重点的に取り組んだこと
・第2層協議体への出席・生活支援コーディネーターとの連携を継続的に行之、支援が必要な方の発見・美都地域の社会資源・地域のニーズ等について情報収集に力を入れ、総合相談対応の機能強化を図る。また、個別に支援が必要と思われる方に対しても協力して対応を行えるよう、連携を図る。 ・美都地域ケア会議を通じ「権利擁護」をテーマとした勉強会をR4年度に引き続き開催。今年度は「終活」についての勉強会を開催。 ・主任介護支援専門員が中心となり、介護支援専門員との連携を図りながら、支援を必要とする方に対し、介護支援専門員等が包括的・継続的ケアマネジメントの実践ができるよう環境づくりを行なう。
R5年度実績と進捗状況
・美都圏域第2層協議体開催時には毎回出席し、生活支援コーディネータや民生委員・公民館・地域自治組織の方々との情報交換や意見交換等に参加。美都地域の社会資源・地域のニーズ等についての情報収集を行い、総合相談対応に活かしている。生活支援コーディネーターとの連携・生活支援コーディネーターを通じて地域サロン参加者等との交流を継続的に行うことができ、個別に支援が必要な方についても協力して対応することができている。 ・美都地域ケア会議にて、「終活」についての勉強会を開催。講師より、大田区にて作成・活用されているパンフレット「デザインする 自分らしい 老いじたく」をご紹介いただき、“元気なうちから必要な備えをして、これからの人生を前向きに考えてみる”ことを学んだ。また、それをもとに、“ご本人に人生の最期まで自分らしく過ごしていただくための支援として、各事業所においてできること”について考える時間を持つことができた。益田市においても、大田区と同様の取組を行うことを希望する意見が多数あがっている。 ・介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメントが実践できるような環境づくりができるよう、主任介護支援専門員を中心とし、美都圏域を担当区域とされている居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護の各事業所へ、美都地域ケア会議にて把握している美都圏域にて活用できる社会資源等についての情報提供を行っている。また、対応困難ケースについては、必要性により、民生委員・公民館・駐在所等との連携支援を行っている。今後は、美都圏域を担当区域とされている居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護の各事業所の介護支援専門員が、美都圏域にお住まいの方のケアマネジメントを行うにあたり困っていること等の把握に努めたいと思う。
R6年度に重点的に取り組むこと
・引き続き、第2層協議体への出席・生活支援コーディネーターとの連携を行い、支援が必要な方の発見・美都地域の社会資源・地域のニーズ等について情報収集に力を入れ、総合相談対応の機能強化を図る。 ・地域課題に対する取り組みとして、美都地域ケア会議にて作成した、『自分が元気なうちから自分のことを振り返り、将来、支援が必要になった時に、在宅での生活においても、施設での生活においても、自分に合った支援を受けられるよう、自分自身で文字にして残していただくためのシート「わたしのあゆみ」』を活用していただけるよう美都地域にお住まいの方等に紹介する。 ・主任介護支援専門員が中心となり、介護支援専門員との連携を図りながら、支援を必要とする方に対し、介護支援専門員等が包括的・継続的ケアマネジメントの実践ができる環境づくりが行えるよう、美都圏域を担当区域とされている居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護の各事業所の介護支援専門員が、美都圏域にお住まいの方のケアマネジメントを行うにあたり困っていること等の把握に努める。

匹見地域包括支援センター

R5年度に重点的に取り組んだこと
・ 公民館職員や駐在所員、民生委員などが、それぞれの職務を通じて見つけた気になる高齢者について、関係者が集まり話し合う場をつくり、関係者がチームとして支援にかかわれるような体制づくりに取り組む。 ・ 地域の民生委員会議を活用するなど、民生委員と地域課題について話し合う場をつくる。 ・ 民生委員や公民館職員、地域住民など、気になる高齢者の生活の場に近い人を中心とした随時型地域ケア会議（サポートミーティング）の開催に取り組む。
R5年度実績と進捗状況
[地域との連携による支援体制づくり・サポートミーティングの開催] ・ 居宅介護支援事業所や駐在所、民生委員からの相談などをきっかけに、居宅介護支援事業所、駐在所、民生委員、市地域総務課、社協匹見支所、地域包括支援センターなどケースに応じた関係者が集まり、状況や課題を共有し、今後の支援の検討や役割分担などを話し合い、対応し、対応後も状況等を共有するなどの取り組みができています。 ・ 高齢者の生活をサポートする地域の専門職と地域の関係者の顔の見える関係づくりを目的の1つとして、地域ケア会議と第2層協議体を合同開催し、地域の状況や既存の社会資源などについての情報共有や意見交換をおこなった。今後、2つの会議体の協働による、高齢者の生活をサポートする資源マップを作成予定。 ・ 地域ケア会議に参加いただいた民生委員とは地域課題について話し合うことができていますが、地区民生委員会全体としての機会を設けることはできていない。 [課題] ・ 昨年度末に職員1名が退職し、以降の補充ができていないため、今年度は1名体制で地域包括支援センター業務に取り組んでいる状況。介護予防ケアマネジメント業務については、運営法人の協力を得て、介護支援専門員（他事業所と兼務）を1名配置しているが、介護予防ケアマネジメント業務に費やす時間が多いため、他業務に十分に組み込めていない。
R6年度に重点的に取り組むこと
・ 地域ケア会議で整理・分析した地域課題を基に、地域づくりに向けて検討した取り組みについて、第2層協議体とともに協議する体制をつくる。地域ケア会議と第2層協議体が連動した取り組みの1つとして、R6年度は匹見版生活資源マップの完成をめざす。 ・ 歯科診療所などと連携して、健康的に年齢を重ねていけるような介護予防についての啓発と情報提供活動を続ける。